

広島に巻き起こるか！タイ旋風の予感。

日差しにまぶしさが戻った三月末の平和記念公園・原爆ドーム（広島市中区）。近くの
本川河岸で咲き誇る桜並木の下、写真を撮り合うフランス人の若い女性二人の姿があった。
ほどなく二人は、同じく世界遺産である宮島・厳島神社（広島県廿日市市）へ向かった。
近くの河岸を出発する小型観光船が交通手段。所要時間は45分ほどである。

広島街では、とにかく欧米の訪日外国人観光客をみかける。広島駅に到着する新幹線
の「さくら」では、一両のほとんどが欧米人といった光景はざらにある。一方で東京や大
阪、福岡で依然続く中国人などアジア系の爆買いはあまり聞かない。

実態をデータが裏付ける。一般財団法人ひろぎん経済研究所が、日本政府観光局や広島
県の統計から分析した出発地別の外国人観光客の割合。広島は、欧州、北米、オーストラ
リアを合わせると56%を占める。全国平均は12%ほどでしかない。当然のようにアジ
ア人の割合は全国が7割を超えるのに対し、広島は3割を切る。

欧米の外国人観光客が広島を好んで訪れる理由はいろいろ言われるが、フランスの世界
遺産、モン・サン・ミ歇尔と宮島・厳島神社との親和性である。いずれも海に浮かぶ信
仰の聖地であり、フランス人をはじめとした欧米人に人気が高いというのだ。

一方、データは裏を返せば、アジアからのインバウンド誘致に伸びしろがあることを示
す。そして、ここにきてサッカーJ1 サンフレッチェ広島が、面白いアジア戦略を本格化さ
せた。タイの英雄と呼ばれるティーラシン選手の獲得だ。

タイでは昨年5月からJ1、J2計4試合が毎節生放送されている。サンフレはタイに進
出している日本企業のスポンサー獲得を狙うのに加え、集客面でも大いに期待をしている。
2016年に訪日したタイ人は約90万人と5年前の6.2倍。その波に乗ってサンフレは原
爆ドームや厳島神社との観光をセットにした観戦ツアーを旅行代理店と企画している。関
係者は「クラブ経営面での効果だけでなく、地域活性化にもつながる」と意気込む。広島
にタイ旋風が巻き起こるのか、目が離せない。

中国新聞社 取締役営業本部長 地域ビジネス局長
木原 慎二



マツダやエディオンの社名ロゴを背にタイメディアの取材を受けるティーラシン選手。